

ブロイラー農場で発生した伝染性ファブリキウス嚢病 とその後の対応：岡山県津山家保 岡田 慧、萱原 佳美

令和 6 年 7 月、2.6 万羽飼養のブロイラー農場で 30 日齢から死亡羽数が増加し病性鑑定を実施。病理組織学的検査で F 嚢のリンパ濾胞萎縮、髄質のリンパ球減数を確認。F 嚢から伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス（IBDV）遺伝子検出。本ウイルスは系統樹解析の結果当該農場使用のワクチンとは異なる株と判明。農場、管理獣医師、薬品会社及び家保で対策を協議し鶏舎消毒の消毒薬変更（逆性石けん→塩素剤）とワクチンプログラムの見直しを決定。消毒前の環境検査では IBDV 遺伝子を検出したが、消毒後は検出されず効果を確認。当該農場は 7、14 日齢で IBD ワクチンを飲水投与していたが IBDV 高感受性時期（3-5 週齢）に抗体価が上昇しない状況が継続。今回入雛から 1 週間隔で抗体検査を実施。8 日齢で ELISA 値（E 値） 0.86 ± 0.32 。29 日齢で 0.07 ± 0.02 （E 値 0.2 以上陽性）。移行抗体消失前のワクチン投与でワクチンブレイクを起こした状態と推察。現在ワクチン投与時期及びワクチン株の変更も含め検討中。